

平成二十七年八月投句

近況を語り掛けをり墓灯籠

電柱に小枝集めてかちがらす

特攻のなにかも知らずかちがらす

勝利

秋立つや昼にぬるめの風呂をたて

光子

群青に思ひは深く川施餓鬼

家族のやうに暮らせし社宅盆の月

忘れぬし梅焼酎とやお納戸に

生きざまをひしとこの木に法師蟬

一升瓶ラベルも古りて梅焼酎

佳与子

捕えられ夏の一夜を籠に猿

真理子

看板の一字字隠し凌霄花

梅花藻の水底のふと夜空めき

鶺鴒とともに団地に住み馴れて

引越して来し新宿の大西日

故郷を吹き渡る風稲の花

節子

西日中人の流れに抗ひぬ

由紀子

競ひ合ふかに雨音の法師蟬

墓参して父の形見の碁盤拭く